

# 農作物生育・技術情報4号

令和5年7月10日

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1. 水稻生育状況（7月1日現在）

●生育状況調査(中苗ななつぼし・5/25前後移植ほ場)

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	遅速 日数	備考 ※ ( )は平年値
R5年	40.5	8.6	510.9	±0	幼穂形成期 7/4(平年7/6)
平年値	42.2	8.5	401.2		
差	-1.7	+0.1	+109.7		

(1) 本年の幼穂形成期は平年7月4日(中苗ななつぼし)です。幼穂形成期から10日間が前歴期間、10日後から約2週間が冷害危険期となります。この期間の水管理の善し悪しは不稔発生に大きく影響します。幼穂形成期を確認したら、目標水深を確保するとともに止め水とし、水温の確保を行ってください。

①前歴期間：花粉の数につながる大事な時期です。水深10cm、平均水温25℃以上を確保しましょう。ただし、分けつが少ない場合は、最初の5日間は5cmにします。

②冷害危険期：前歴期間に作られた花粉の発育を維持する時期なので、水深10cmから徐々に水深20cmになるようにします。

### (2) 病害虫の発生状況

ア 葉もち：7月7日現在、初発は確認されていませんが、過去に発生したほ場を中心に、ほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。

イ アカヒゲホソミドリカスミカメ：本年は発生量は平年並と予想されています。畦草刈り等計画的に進めてください。

## 2. 畑作

### (1) ばれいしょ

#### ○疫病防除

降雨が続いているので多発しやすい条件にあります。7～10日間隔で定期的に防除を実施してください。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

#### ○軟腐病防除

高温多湿条件が続くと多発します。特に窒素過多や倒伏したほ場で発生しやすくなるので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。

### (2) 秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定による収穫予測が可能になります。測定を希望する方はJA及び普及センターまでお問い合わせください。

### (3) 豆類

断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

#### <追肥の目安と時期、施肥量>

- ・小豆(生育量が確保できない場合) 本葉3葉期～開花始 窒素 5kg/10a
- ・大豆(根粒菌の着生が劣る場合) 開花始 窒素 5kg/10a

### 3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：2～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：1～2段目開花 ・黄変果、灰色かび病、尻腐れ果、葉やけ症状等が発生している。	<p>&lt;黄変果対策&gt; 遮光資材（遮光塗布剤、遮光ネット）の利用やリーフカバーの活用で、果実温度の極端な上昇を避ける。</p> <p>&lt;灰色かび病対策&gt; 葉の過繁茂による多湿を避けるため、ベットの内側や下葉の摘葉を行い、通気性をよくする。</p> <p>&lt;尻腐れ果・葉やけ症状対策&gt; 曇天後の快晴に備え、こまめなかん水や石灰資材の葉面散布を行う。</p>
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月定植収穫中。</li> <li>・ハモグリバエ類が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の除草を行う。</li> <li>・ハモグリバエ類は浸透移行性のある薬剤を散布し防除に努める。</li> </ul>
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萌芽～夏芽収穫始め。</li> <li>・生育は概ね順調である。</li> <li>・一部ほ場で斑点病が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斑点病の早期防除に努める。</li> <li>・ハウス内の湿度を高めないように換気に努める。</li> <li>・ハウス周辺の除草を行う。</li> </ul>
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番果着果～肥大期</li> <li>・アブラムシ類が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7節までに着果した果実は小玉となるため摘果する。</li> <li>・畝間に追肥し中耕する。</li> </ul>

### 4. 飼料作物生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R5年	平年	遅速日数	収穫期(平年値)	
牧草 (2番草)	草丈(cm)	8.9	8.4	+1	6/22 (6/26)	収穫は好天によりやや早く進んでいる。(＋4日)
デントコーン	草丈(cm) 葉数(葉)	94.2 10.1	71.0 8.6	+7		生育の遅速は平年より早い。高温多照により生育は進んでいる。

#### ●牧草地の雑草防除

ギシギシ類は、開花後2週間程度で発芽能力のある種子を持つため、牧草刈取り後、ギシギシ類の葉が展開するのを目安にして除草剤散布を行いましょう。なお、薬剤選定や使用時期（夏・秋処理）については、草地のマメ科牧草の有無なども考慮して判断します。

#### ●防疫対策を行いましょう

夏期は気温と湿度の上昇によって病原菌が繁殖し、乳房炎を始め様々な疾病が発生しやすくなります。作業者の予防意識を高め、防疫対策を徹底しまししょう。

ア 農場出入口には車両用に消石灰(目安：0.5～1kg)/㎡を散布し、消毒帯(2m以上、タイヤ一周分)を作らしまししょう。畜舎等の出入口には、踏み込み消毒槽を設置しまししょう。

イ 牛舎出入口にネットを設置し、野生鳥獣の侵入を防止しまししょう。

ウ 換気を行い、敷料の交換頻度を高め、牛体(乳房・乳頭)を清潔に保ちまししょう。

エ 搾乳機器・バルククーラーは日常的・定期的に点検し、部品交換を行い、異常が確認された場合は速やかに修理しまししょう。

オ 体細胞が高い場合は原因牛をPLテスター等で特定し、早期治療しまししょう。